野町まさき

2015
平成27年11月

高知家 高知県議会
県政レポート

Vol. 1



ごあいさつ

高知県議会議員の野町まさきでございます。

私は、昨年の12月まで県職員でした。特に、最後の7年間は尾﨑知事のもと県政浮場のための総合戦略である産業振興計画の作成、そして実践と県職員としての誇りと充実感を持って仕事に邁進させていただきました。

本年4月、地域の皆さまのご付託により、初当選させていただき、早半年が過ぎました。9月の定例県議会では初めての質問に立たせていただき、11月には新会派「新風・くろしおの会」を結成するなど、議員としての一歩を踏み出したところです。


左より下村県議、三石議長

今後は、これまで県庁内外で培ってきた情熱・ノウハウ・人脈等をフルに活用し、県議会議員として県勢発展のため、しっかりと取り組んでいく覚悟であります。

議員1年生の新米です。未熟ではありますが、皆さまのご期待に沿うように誠心誠意努めさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

平成27年11月　野町　雅樹

地域の皆さんの生活相談に対応しています!

熱血

住民の皆さんからのご要望を受け、現地確認後、各行政機関などと連携して対応しています。


市道の改修


国道の排水対策


近所のゴミ集積場のカラス対策



安芸市議会議員と民活の市立図書館及びふるさと納税の県外調査

ヨーロッパへの輸出戦略におけるユズの位置づけと今後の展開について


高知産ユズを使用(パリ)

野町委員

食料品の輸出額は平成21年の約5,000万円から26年には3億4,000万円に増加。ユズがトップで、ヨーロッパへの輸出も多い。今年8月、フランスにてユズの動向を調査。4年前と比べ、ユズが定着していると実感。そこでヨーロッパへの輸出戦略におけるユズの位置づけと今後の展開方法を産業振興推進部長に問う。

産業振興推進部長

生産量日本一のユズを今後もヨーロッパ向けの輸出基幹品目として取り組みたいと思います。目標としていた100トンの輸出を26年度でクリアしました。ユズを産業振興の柱に位置づけている市町村が複数あり、国内外の市場を見据え、ユズ生産の継続と若者の参入が増えるような戦略を検討していきたいと思います。

今、9人の海外シェフによるレシピ本を制作中で、間もなく完成予定です。これらを活用しながら、ヨーロッパやアメリカ、シンガポールには内外の商社と共に販路を着実に広げていきます。それ以外の国は展示商談会等、新たな販路開拓にも取り組みたいと考えます。

ユズの振興における輸出戦略の位置づけと輸出需要への対応について



フランスのレストラン(高知産のユズ使用)

野町委員

今後のユズの振興における輸出戦略の位置づけ、県内産地の役割分担、高まる輸出需要への対応を農業振興部長に問う。

農業振興部長

輸出を拡大するためには、高品質なものを安定的に供給することが求められます。今年5月に全てのJAの搾汁施設が県版HACCP(ハサップ:食品製造過程での衛生品質上の安全確保システム)を取得、高品質な果汁の生産体制が実現しました。今後はユズ振興対策協議会において果汁などを安定的に供給するため、産地間で相互に融通し合う補完調整を推進していくということにしています。また、基盤整備や作業効率の改善、新植・改植を進めることにより、産地全体としてユズの供給量を強化するよう取り組んでいきます。

尾﨑県知事や県幹部に地域の皆さんと連携して陳情!

熱血


安芸市長、議長らと知事への陳情
平成27年7月


安芸漁協の皆さんと水産振興部への陳情
平成27年10月


芸西村長との打合せ
平成27年7月

Information
野町(のまち) まさき
県政事務所
新風・くろしおの会
〒784-0031 安芸市穴内甲567-2
TEL & FAX 0887-37-9781
E-mail nomachikoenkai@outlook.jp
facebook 野町まさき で配信中



本議会、常任委員会、特別委員会、予算委員会は特別の場合を除き、どなたでも傍聴できます。
高知県議会 検索 http://www.pref.kochi.lg.jp/~gikai/

9月定例県議会
予算委員会質問の詳細


和食ダム　平成27年10月現在


和食川の放水路　平成27年8月現在



被災者の声を届ける「3.11からのメッセージ展」
県立大方高校（県内6ヶ所目）にて　平成27年11月


炭酸ガス発生器

オランダ・ウエストラント市の園芸施設　平成27年7月


9月議会提案説明

南海トラフ地震を含む自然災害への対応について

■野町委員

津波避難対策等加速化臨時交付金の交付が本年度で終了、新たな避難タワーの建設や避難道の整備を望む声もある中、今後の要望への支援策について問う。

■危機管理部長

新たな施設の整備については、本年度予算化したものに関し、津波避難対策加速化交付金の対象として考えています。ぜひ市町村の皆様にはこれを活用して対策の加速化をしていただきたいと考えます。28年度以降の予算で対応するものは、南海トラフ地震対策特別措置法により補助率がかさ上げされた国の補助事業とか、緊急防災・減災事業債を活用し早期の整備をお願いしたいと考えます。

安芸市における事業の遅れについて

■野町委員

安芸市で10棟の避難タワー等の建設が進む中、整備計画が遅れる事態が発生。安芸市伊尾木地区の竜王池の決壊の怖れなど地元住民の不安をどのように捉え、対応するのか問う。

■農業振興部長

地元の皆様には大変御心配をおかけし、申し訳なく思っています。津波避難タワーは、平成27年度に3基、28年度に3基を整備し終了する予定です。竜王池は津波避難タワーの工事終了後直ちに平成29年度に着工、30年度完成の計画です。必要な予算の確保に取り組み、できるだけ早く完成するように取り組みます。

和食川の治水対策について

■野町委員

近年台風や集中豪雨などによる被害が多発、園芸用ハウスも毎年のように浸水被害をうける。そこで総工費128億円の和食ダム完成の見通しと治水機能を問う。

■福田土木部長

和食ダムは、平成25年10月本体建設工事の契約、本年7月から堤体コンクリートの打設を開始し、平成30年度の完成を目指しています。治水機能は、ダム事業完成後は50年確率に相当する平成元年8月豪雨規模の出水に対しても氾濫しなくなるものと認識しています。

■野町委員

現実的には、台風等により和食川の4つの放水路が複数門詰まってしまう事態が頻繁に起きており、被害が助長されている点についても認識いただきたい。

次世代型園芸農業の推進について

■野町委員

県の園芸農業は環境に優しい農業を推進、炭酸ガス利用など環境制御技術の普及に取り組んでいる。これら技術普及の加速化のため、平成26年度の補正予算から創設された環境制御技術導入加速化事業の活用状況と事業要件の緩和など、より一層の加速化について問う。

■農業振興部長

この事業は、昨年9月補正で予算を認められました。平成26年度には96件、本年度は142件、あわせて238件の導入予定となっています。炭酸ガス発生器の総導入面積は、平成25年度末の31ヘクタールから本年度末は80ヘクタール、2年間で2.5倍となる見込みです。早期導入を県、JAが連携して取り組んでいきます。面積も多い安芸地域で、いかに普及するかが全体を引き上げる大きなポイントと思いますので、御支援をお願いします。事業要件の緩和は、普及の加速化という観点から前向きに見直しも検討しています。

オランダのウエストラント市との技術交流について

■野町委員

ウエストラント市の最新の園芸施設や環境制御機器、大規模な企業的経営を視察。交流の継続と技術普及の要となる農業振興センターの環境制御技術普及推進員の参加について問う。

■農業振興部長

本県がオランダの技術をモデルとした次世代型の高知新施設園芸システムを推進していく上、オランダとの交流継続は大変重要な視点だと考えます。普及推進員の派遣については、大変重要な視点として積極的に見直し検討します。

木質バイオマスの活用

■野町委員

本県は、森林率84％の日本一の森林県であり、木質バイオマスの利用拡大など、森林資源を活用し、地域内で資源やお金を回していく構想は評価。そこでバイオマス事業の県内林業への効果を問う。

■林業振興・環境部長

2基ある発電機がフル稼働すると木質バイオマス発電分として林業関連産業に13億3,000万円、254台導入したバイオマスボイラーの関連で3億8,000万円、合計17億1,000万円の経済効果をもたらしています。木材の運び出し、加工、発電所などに関して約300名の雇用創出効果があります。

チェックポイント

◎木質バイオマスとは
「木材に由来する再生可能な資源」のことです。まき、木炭、チップ、ペレットなどの木質バイオマスエネルギーは、森林の適正な管理により持続可能なエネルギーであり、地球温暖化防止や循環型社会づくりにもつながります。

ペレット供給の現状と今後の見通し、原料価格の高騰への対応について

■野町委員

ペレット供給の現状と今後の見通し、原料競合により製造業者も困窮する程、低質材の価格が上がっており、今後の対応を問う。

■林業振興・環境部長

今年度のペレットの需要見込みは約8,100トン、県内製のペレットはそのうち4,500トン、県内自給率は56％になる見込みです。今後は原木増産を行い、宿毛市の発電所に併設されたペレット製造施設が安定的に稼働し、順次増産しますので、自給率の改善につながると考えます。ペレットの安定供給に向け、さらなる木材増産による低質材の生産拡大や生産性の向上による低コスト化、またペレットの製造事業者には施設の生産効率や稼働率の向上といった低質材の協定取引の推進を、配送等を行う農協の皆さんにも効率化をお願いします。少しでも安く安定的なペレット供給ができる支援を県も続ける考えです。

チェックポイント

◎ペレットとは
再生可能で地球環境にダメージの少ない木材を原料にした新しい燃料エネルギー。
原料には、間伐材や製材端材が使われ、乾燥→破砕→圧縮することで小粒状の固形燃料になります。漏れたり染みたりする心配がなく、嫌な臭いもありません。

今後の園芸用バイオマスボイラーの導入とペレット価格の上昇への対応について

■野町委員

本県農業は近年、環境に優しい農業をキャッチフレーズに全国のトップランナーとして発展。次は、農業のエネルギー転換と考え、園芸用木質バイオマスボイラーの普及に取り組んできたが、需給が計画どおりにならず、ペレット価格も上昇。生産者から今後のペレット利用を不安視する声も。今後の園芸用バイオマスボイラーの導入に対する所見と、ペレット価格の上昇への対応を問う。

■農業振興部長

現在重油と木質ペレットの価格が逆転してしまい、今のままでは木質バイオマスボイラーのさらなる導入拡大は厳しい状況と認識しています。しかし、環境保全型農業を推進する観点から、温室効果ガスの削減につながる木質バイオマスボイラーの導入は重要であり、エネルギーの地産地消という観点からも重要な取り組みです。供給側とも連携し、今後の方向性を探っていきます。木質ペレットの価格上昇への対応は、現状では木質ペレット利用者への価格差を補填する支援は慎重にならざるを得ないというところが正直なところです。供給側にも価格を抑える努力をお願いをしながら、燃料費削減のため、保温性の高いハウスの多層張りなどの支援に取り組む考えです。

「元気、即行動、一生懸命!」で
県政に全力投球しています!

常任委員会
（産業振興土木委員会に所属）

多くの議案の審議を本会議で一度に全て行うことは困難です。そこで本会議の議決に先立ち、専門的かつ詳細に審査する委員会の場を設けています。常任委員会は常時設置している委員会で、本会議から送付された議案や請願などを審査します。また、出先機関や現場に行って、市町村さんや関係者の方々から直接お話をお伺いします。

常任委員会の政務調査


高知市の堤防耐震工事現場にて
平成27年6月


和食ダム工事現場にて
平成27年6月


室戸市の「うみ路」にて
平成27年6月


予算委員会にて
平成27年9月